

法社会学

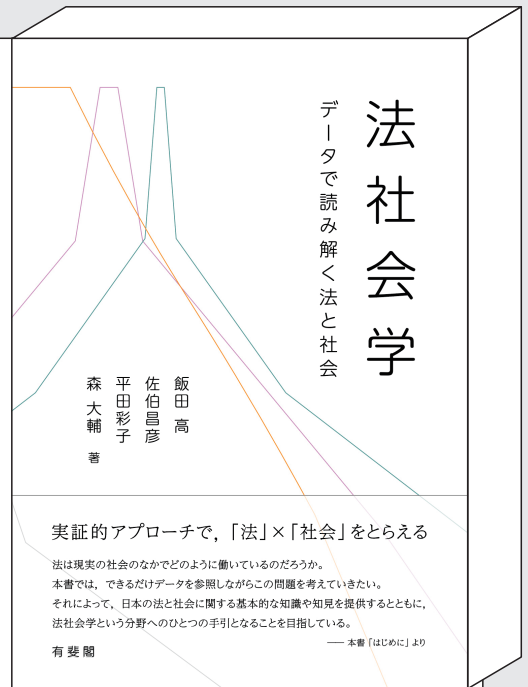
——データで読み解く法と社会

飯田 高 = 佐伯昌彦 = 平田彩子 = 森 大輔

担当編集から

法社会学は、扱う対象も手法も非常に幅広い学問分野ですが、本書はそのなかでも数量データを使ったアプローチを軸として、法と社会との関わりを描き出そうとする、ユニークなテキストです。法制度を支える複雑な社会の姿を明らかにするために、数量データがどのように蓄積され、どのように用いられているのか？ 本書はその疑問に答えつつ、法社会学という学問の見取図を示してくれます。

本書にはたくさんの数字や図表が出てきますが、用語やデータの性質について丁寧に説明されていますので、恐れる必要はありません！ 巻末の「文献案内」や各UNITの「引用文献」も充実しているので、気になるテーマについて深掘りするのもおすすめです。また、ホームページの「ウェブサポート」に、本文で紹介できなかったデータや補足説明を掲載しています。すでに法学を専門に学んでいる人にも、これから「法」や「社会」について学び始めようという人にも、きっと新たな発見があるはずです。(T)



実証的アプローチで、「法」×「社会」をとらえる

法は現実の社会のなかでどのように働いているのだろうか。本書では、できるだけデータを参照しながらこの問題を考えていきたい。それによって、日本の法と社会に関する基本的な知識や知見を提供するとともに、法社会学という分野へのひとつの手引となることを目指している。

有斐閣

—— 本書「はじめに」より

レベル - 用途 - 対象 —
中級 学習 学部 LS



2025年12月発売 / 332頁 / 定価3960円(税込)
A5判 / 並製

Point

UNIT4・5、UNIT10・11は、順に読んでいただくのがおすすめです。

はじめに

UNIT 1 日本法の概観と歴史

UNIT 2 日本の統治構造と裁判制度

UNIT 3 法専門職

UNIT 4 法意識①——法意識研究の始まり

UNIT 5 法意識②
——法意識のさまざまな実証分析

UNIT 6 民事司法過程①——日本の民事訴訟はなぜ少ないか

UNIT 7 民事司法過程②——民事訴訟の件数に影響を与える要因

UNIT 8 民事司法過程③
——問題の発生と対処行動

UNIT 9 民事司法過程④
——当事者の訴訟経験

UNIT 10 刑事司法過程①
——事件処理の流れと特徴

UNIT 11 刑事司法過程②
——刑事司法の実態と弁護

UNIT 12 行政過程

UNIT 13 法の生成①——フォーマルな「法」

UNIT 14 法の生成②——社会のルールと「法」

UNIT 15 実証分析の基礎

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

